

1. 調査報告概要表

作成日 2007年10月12日

【評価実施概要】

事業所番号	2670900717
法人名	有限会社マコト
事業所名	グループホーム まこと
所在地	京都市伏見区横大路貴船8-2 (電話) 075-604-6173

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	大阪市北区天神橋2丁目北1番21号		
訪問調査日	平成19年9月13日	評価確定日	平成19年11月20日

【情報提供票より】(平成19年8月18日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 13年3月31日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	8 人	常勤 7人, 非常勤 人, 常勤換算 7人	

(2) 建物概要

建物構造	木造		
	1階建ての	1階 ~	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1月当たり 40,000 円		

(4) 利用者の概要(8月18日現在)

利用者人数	名	男性 名	女性 6名
要介護1	2名	要介護2	名
要介護3	2名	要介護4	2名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 81歳	最低 75歳	最高 88歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	蘇生会総合病院
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅街の中にあり外観は普通の家と変わらず、グループホームは家なのだという事を改めて感じさせてくれます。「低所得者においても入居しやすい事業所を作りたい」という代表者のグループホームに対する思い入れは強く、スタッフからの信望がとても厚いです。「代表者は尊敬できる人で真似をしていきたい」というスタッフの言葉や入居者の穏やかな表情からも日々のケアの素晴らしさが伺えます。外出・散歩を基本的なケアとし、散歩・ドライブ・買い物などの外出支援に力を入れています。事業所内はバリアフリーで整理整頓されており清潔感があります。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価で指摘のあった点については改善されており、自治会の行事に参加するなど、地域との交流に向けて取り組まれています。また、業務に追われず、利用者と一緒にゆったりと暮らせるような配慮もされています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	今回の自己評価については職員に自己評価表を渡し、管理者と共に検討し記入されています。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	運営推進会議では介護相談の実施と報告などを話し合われています。今後、よりよい会議にするためにも市職員・民生委員・消防団・学校関係者など議題に即した方の参加をお願いして、意見・質問・要望等を受けながら双方向的な会議になるよう取り組まれることが期待されます。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	第三者委員による、苦情受付についての案内が玄関に掲示されています。また月に1回入居者の家族を訪問し意見・要望等を聞く機会を設けています。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域とのよりよい関係づくりのため散歩時に挨拶を交わしたり、小学校の運動会・地域の祭り等の催し事に積極的に参加されています。さらに地域との良い関係が構築できるように、事業所のパンフレットの配布、自治会への入会、近隣の方が訪問しやすい環境づくり等が期待されます。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「それまで通りの普通の暮らしを提供していく」という理念を作り、事務所内に掲げている。	○	地域密着型の施設として現在の理念に地域での役割という観点からの理念を盛り込み、入居者・家族・スタッフ等が理解しやすいように玄関など目につきやすいところに掲示される事が望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	出勤時、理念に基づいたケアをする事を確認をし合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩時、近隣の住民と挨拶を交わしたり、小学校の運動会・祭りなど、地域の催しごとに参加している。	○	地域からの理解を得るため、事業所のパンフレットを作り配布するなど、地域との関係がさらに深まるよう取り組まれることを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価後、地域との関わりの中で自治会に参加するなど、地域との交流に向けて取り組まれている。また業務に追われず入居者と一緒にゆったりと暮せるように取り組まれている。今回の自己評価については、職員に評価表を渡し管理者と検討し記入している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長・家族代表・包括支援センター職員・事業所の職員参加のもと定期的に開催されており、介護相談の実施と報告などのほか事業所での行事の回覧も行っている。	○	市職員・民生委員・学校関係者・消防団など、議題に即した担当者が出席できるよう働きかけることを期待する。

グループホームまこと

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月1回開催される区内のサービス事業者推進会議へ出席し、セミナーの呼びかけをするなど総合的なことに取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回の家族宅への訪問時、出納表を渡し入居者の状況変化などについて説明をしている。	○	口頭での報告だけでなく、関わった職員の名前と、入居者の状況等を記録したものを渡されるとよいのではないですか。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者苦情受け付については玄関に掲示しており、月に1度家族宅を訪問し意見等を聞くようにしている。	○	家族の意見・思いを把握するための指標としてアンケート等により満足度調査などもされてはいかがでしょうか。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	スタッフの離職を防ぐために管理者といつでも話ができるような体制をとっている。また2か月に1回、食事会を設けるなど、ストレスを溜めないような環境作りにも努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	京都市長寿すこやかセンター介護職員向けの年間研修計画を利用しながら、事業所独自のスケジュール表も作り、それに基づき研修を実施している。伝達については資料を回覧している。	○	資料の回覧のみでなく会議等の機会に伝達研修をされることが期待される。また出席できないスタッフについては報告書にて伝達をし、確認印と日付を記載することが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同区内のグループホーム・老人施設の見学・管理者による勉強会等実施している。また年2、3回1日体験ということで他施設の職員と交流を図ることもあり、サービスの質の向上に向けて取り組んでいる。		

グループホームまこと

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用決定後、入居までの期間に自宅訪問をし家族・利用者と顔なじみになり信頼関係を築いている。また見学できる体制もある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	得意料理、漬物のつけ方など教わったり、出来ることは積極的に行ってもらいながら、日々一緒に過ごしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を取り入れ情報収集をして、利用者の意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式にて家族、職員にてアセスメントを行い一人ひとりの特性をかせるような、入居者からの視点に立ったプランが作成されている。	○	家族の意見をケア計画書の意向欄に記録しておくと共に、スタッフへの伝達も口頭のみでなく記録をもとに伝達する事が望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6か月ごとに開催するカンファレンスに本人・家族等も参加し、その都度見直しをしている。	○	3か月に一度、カンファレンスを開催し計画の評価をして、日々のケアと計画にずれがないかを見極め、記録として残されることが望まれる。

グループホームまこと

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診・教会・家族との食事・墓参りの送迎等、利用者・家族の要望に応えるよう努めている。また葬式の要望もあり、今までに2件実施された。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診希望があれば送迎をし、それ以外は協力医療機関にて適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所でのターミナルケアについては模索中であり、様々な角度から検討しているが限界を感じている。家族にも入所時に説明をし同意を得ている。	○	家族・職員と協議をしながら事業所として出来る限りの支援を、もう一歩踏み込んで再検討されることを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対する言葉使いに関しては常に気をつけるよう心がけ、職員会議の場においても指導をしている。	○	個人情報の記録については鍵付きの書庫等に保管されることが望ましい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩・ドライブ・誘導の仕方・パンの焼き方に至るまで個々の思い・ペースを大切に、一人ひとりの希望に応じた支援をしている。		

グループホームまこと

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立・買い物・調理・片付けなど自分の役割を見つけ出し、出来ることを職員と協力、助け合いながら行っている。職員は入居者と同じテーブルを囲んで楽しく食事できる雰囲気づくりも大切にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間8:00～18:30、入浴日は月～金曜日と一応は決められているが、希望があればいつでも入浴することは可能である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作り・後片付け・洗濯物干し等様々な役割があり、またダンス教室・家族との食事・喫茶店への外出等、楽しみや気晴らしのための様々な選択肢がある。お友達と話がしたいという要望等あれば、その方にきて貰い喫茶店への送迎をするなどの支援もしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	公園への散歩・スーパーなどへの買い物・ドライブ等、外出の機会を常に設けている。また不定期ではあるが食事外出(寿司屋など)に出かけることもある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回、消防署員と一緒に避難訓練を実施している。また施設独自の避難訓練を半年に1回実施しており、地域の方に参加して貰うこともある。	○	夜間想定での避難訓練の実施についても検討されることを期待する。

グループホームまこと

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業務日誌やミーティング、日々の会話の中で状態を確認し合っている。	○	献立の内容等について保健所等の栄養士のアドバイスを受けることを期待する。また利用者の健康状態を把握するためにも食事・水分摂取量を記録しておくことが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	限られたスペースの中で上手く空間づくりがされており、ホッとできる居心地の良い空間である。また、居室前に掛けられている簾が雰囲気をかもし出している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの物やこだわりのある物を持ってきて貰い、その人らしい居心地のよい居室作りをされている。また、居室に畳を敷きたいなどの希望があれば可能である。		